

令和元年6月24日現在

機関番号：13101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K16860

研究課題名（和文）オデッサとウラジオストクから見る末期のロシア帝国

研究課題名（英文）The Late Russian Empire between Odessa and Vladivostok

研究代表者

左近 幸村（Sakon, Yukimura）

新潟大学・人文社会科学系・准教授

研究者番号：30609011

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：1878年に活動を開始し、ロシア革命後の1924年に消滅したロシア義勇艦隊の歴史の全体像を描くことができた。先行研究では、発足の経緯についてはある程度明らかになっていたものの、その活動実態や役割がどのように変化していったのかについては、不明なことが多かった。本研究ではセルゲイ・ヴィツテの義勇艦隊改革案が持つ意味を検討したうえで、20世紀に入ってから義勇艦隊の活動を明らかにし、オデッサを拠点とする他の汽船会社との競合関係に考察を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ロシア義勇艦隊はオデッサとウラジオストクを結び、長崎を含む南アジア、東南アジア、東アジア各港に寄港した。ロシアとアジアの関係を考えるのに重要な存在であり、ロシア史家の間で名前は知られているものの、実態はほとんど明らかになっていなかった。ロシア帝国の東西の港を拠点とし、アジアの多くの港に立ち寄った義勇艦隊の歴史を明らかにしたことは、広大な帝国の統合、ならびにロシアと世界経済の関係を考える上で、重要な一歩となった。

研究成果の概要（英文）：This project has described the whole history of the Russian Volunteer Fleet from 1878 to 1924, which connected Odessa with different ports of the Russian Far East and Asia, including Vladivostok, Hankow, Singapore and Colombo. Although studies had been made on the reasons of its establishment, little was known about its actual operations and transformation this study dealt with. Especially I would like to emphasize the importance of Sergei Witte's plan to use Russian merchant ships for develop Asian markets with Trans-Siberian railway. Moreover, I have researched the Volunteer Fleet's rivals, the Russian Steam Navigation and Trading Company and the Russian Donau Steamship, whose base were Odessa.

研究分野：歴史学

キーワード：ロシア帝国 海事史 グローバルヒストリー

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

21世紀に入ってからのロシア帝国論は長足の進歩を遂げ、オスマン帝国や清帝国などとの比較帝国論も盛んだが、民族や宗教の研究に比べると、経済面の解明は遅れ気味である。加えて、ロシア帝国と言うと「陸の帝国」というイメージが専門家の間でも強いせいも、国際的に見ても、ロシア史における商業汽船の研究は大きく遅れている。

だが、筆者がこれまで茶貿易の研究などで史料調査を行った結果、政治的にも経済的にもロシア帝国にとって、海運の発展もまた無視できない重要な課題だった可能性が高まった。中でも注目すべきは、1879年から第一次世界大戦勃発までオデッサとウラジオストクを結んだロシア義勇艦隊の歴史である。義勇艦隊は、帝政ロシア末期のプロジェクトとして有名だが、その実態についてはロシア本国でもほとんど研究されていない。

また筆者はもともとウラジオストクを中心とするロシア極東の歴史を研究してきたが、義勇艦隊の研究を始めて以来、オデッサとウラジオストクは、それぞれ18世紀の末と19世紀の半ばに作られて以来、自由港制の導入や周辺の国際環境、多民族の流入など一定の類似性が見られることに気が付いた。そこで義勇艦隊の研究を通じて、広大なロシア帝国の統合過程を観察し、グローバルヒストリーとの関連も描けるのではないかと、着想した。

2. 研究の目的

本研究はオデッサとウラジオストクの類似点に着目し、海からロシア帝国を総合的に把握しようとする試みである。近年、ロシア帝国論は大きく進展し、各地域の実相が明らかになりつつあるが、それゆえ広大な帝国全体を統一的に把握する視点も求められている。本研究はこの課題に応えようとした。同時に、二つの港を結んだロシア義勇艦隊の歴史を描くことも目的としている。ロシア義勇艦隊は、オデッサからロシア極東へ兵士や囚人、農業移民を運んだだけでなく、帰路に中国で茶を積んで戻った。1904年のシベリア鉄道完成後も、中国のみならず南アジアからも茶をロシアに輸送し、年20往復以上するなど、第一次世界大戦が始まるまで活動を続けた。周辺地域と密接な繋がりを持ったオデッサとウラジオストクを、海運の観点から比較することにより、ロシア帝国論とグローバルヒストリーを接合することを目指した。

3. 研究の方法

一次史料の収集と読解に基づく、オーソドックスな歴史学的手法で研究した。

主にサンクトペテルブルクのロシア国立歴史文書館(RGIA)、ナショナル図書館、モスクワのモスクワ中央国立文書館(TsGAM)、国立図書館、ヘルシンキのヘルシンキ大学図書館などで関連文献の収集を行った。ロシアの電子図書館からも、多くの史料をダウンロードした。特にRGIAは義勇艦隊の一次史料が揃っているほか、オデッサとウラジオストクからの官民の報告書も多数保管されている。これらの史料を読み込み、学会報告や論文執筆を行った。

4. 研究成果

ロシア義勇艦隊の変遷過程については、かなりの程度明らかにすることができた。例えば、最初の10年間と、その後では、所有する船の性格がかなり変わっていることである。当初の船は中古船が主で、基本的に武装していたが、これらの船は1890年代半ばまでにすべて売却され、80年代の末からは新規に建造された非武装の船が増え、大型化した。日露戦争後に所轄が海軍大臣から商工大臣に変わる過程なども、管見の限り先行研究では全く知られていない。これら海運や港湾の研究成果を踏まえ、19世紀後半から20世紀初頭にかけての世界経済とロシア経済の関係を考察し、論文を発表した。

これらの問題のキーパーソンと言える人物が、19世紀末に財務大臣を務めたセルゲイ・ヴィッテである。彼はシベリア鉄道を建設し、ロシアの東方進出を推進したことで知られているが、海運にも関心を示していたことは、これまでの研究でほとんど指摘されて来なかった。だが本研究が明らかにしたように、ヴィッテは鉄道と海運の両方の交通網を使い、中国とイランを軸とするアジア市場の開拓を目指したのである。彼の計画は他の閣僚の理解を得られず、とん挫することになったが、ヴィッテの計画とそれをめぐる政府内の論争は、ロシアがいかに世界経済と向き合ったかを端的に示すものとなっている。

一方、研究の進展とともに課題も出た。義勇艦隊から見たオデッサとウラジオストクは描けたが、これらの港に寄港した他の汽船会社の活動については、設立の経緯やいくつかの航路就航のいきさつについては明らかに出来たものの、今後更に研究を進める必要があると考えている。特に義勇艦隊とともに帝政期ロシアを代表する海運組織であり、黒海と東地中海を中心に航路網を張り巡らしていたロシア商船(英名 The Russian Steam Navigation and Trading Company, 1856年設立)がオデッサの発展にどのように貢献したのか、またこれらロシアの海運とギリシア人、ユダヤ人とがどのような関係にあったのかを調べるのは、ウラジオストクにおける中国人、朝鮮人の役割との比較という点からも、残された課題である。

以上の成果と課題は学会報告や論文という形で発表してきたが、まとめて単著として公刊する用意を進めている。

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文](計4件)

Yukimura Sakon, “The Russian East Asiatic Company and the Volunteer Fleet after the Russo-Japanese War: The Case of Russian Transatlantic Liners”, *ChiMoKoJa: Histories of China, Mongolia, Korea and Japan*. Vol. 1, 2015, pp. 1-15.

Ю. Сакон. Россия накануне Первой мировой войны: Одесса, Владивосток и проблема вольной гавани //Первая мировая война и Россия: Научная встреча с профессором В.В. Кондрашиным. Университет Васэда. Институт российских исследований. 2016. С. 27-33. (同内容の日本語版)左近幸村「第一次世界大戦へ向かうロシア:東西の港から考える」早稲田大学ロシア研究所編『第一次世界大戦とロシア:コンドラーシン教授を迎えて』2016年、61-65頁。

左近幸村「草創期のロシア義勇艦隊」『ロシア史研究』97号、2016年、3-26頁。

左近幸村「ヴィッテとアジア市場」『国際政治』191号、2018年、32-47頁。

[学会発表](計7件)

Yukimura Sakon, “The economic development of Russian Far East villages in the late-nineteenth century and early-twentieth century: Analysis of the reports of the Amur Expedition”, The Third Congress of the Asian Association of World Historians, Nanyang Technological University, Singapore, 30 May, 2015.

Yukimura Sakon, “The Great Game of Tea: Russian Tea Trade in the Late Nineteenth and Early Twentieth Centuries”, Slavic-Eurasian Research Center 2015 Summer International Symposium, Hokkaido University, 30 July, 2015

Yukimura Sakon, “The Northern Steamship Company, 1899-1918: Foreign Capital in Imperial Russia”, The 9th World Congress of ICCEES, Kanda University of International Studies, 6 August, 2015.

Yukimura Sakon, “The economic development of Russian Far East villages in the late nineteenth and early twentieth centuries”, Global History Workshop "Globalization from East Asian Perspectives", Osaka University, 17 March 2016.

「ヴィッテとアジア市場」2016年度ロシア史研究会大会、東北大学、2016年10月9日。

Yukimura Sakon, “A Peaceful Fight? Russia’s Maritime Attempts in the Eastern Mediterranean before WWI”, 3rd International Conference of the ICSR Mediterranean Knowledge. 8th International Conference of Medworlds, University of Salerno, Campus of Fisciano, 26-28 September 2017.

Yukimura Sakon, “Sergei Witte and the shipping associations: rethinking the Russian Empire from a maritime viewpoint”, Oberseminar zur Geschichte Russlands und Asiens Wintersemester 2017, Ludwig- Maximilians-Universität München, 14 November, 2017.

[図書](計4件)

左近幸村「軍事か経済か:帝政期ロシアの義勇艦隊に見る軍事力と国際関係」『グローバルヒストリーと戦争』大阪大学出版会、2016年、137-163頁。

Yukimura Sakon, “Development of Trade on the Amur and the Sungari and the Custom Problem in the Late Years of the Russian Empire”, Kimitaka Matsuzato ed., *Russia and Its Northeast Asian Neighbors: China, Japan, and Korea, 1858-1945*, Rowman & Littlefield, 2016, pp. 49-64.

左近幸村「経済のグローバル化とロシア帝国」池田嘉郎ほか編『ロシア革命とソ連の世紀1 世界戦争から革命へ』岩波書店、2017年、35-58頁。

左近幸村「ロシア極東の経済発展と農業移民:人口移動から見たロシア帝国と東アジア」秋田茂編『「大分岐」を超えて:アジアからみた19世紀論再考』ミネルヴァ書房、2018年、273-296頁。

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

〔その他〕

<大学のホームページ>

http://researchers.adm.niigata-u.ac.jp/html/200000046_ja.html?k=左近

<researchmap>

<https://researchmap.jp/read0137671/>

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。